

令和5年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 茨城県

農業委員会名： 鉾田市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和5年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和4年4月1日

任期満了年月日 令和7年3月31日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	24	24
認定農業者	—	16
認定農業者に準ずる者	—	2
女性	—	3
40代以下	—	1
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	36	35	35

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	2,851
農業経営体数	2,200

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	4,763
女性	2,102
40代以下	1,310

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	702
基本構想水準到達者	197
認定新規就農者	9
農業参入法人	0
集落営農経営	1
特定農業団体	0
集落営農組織	1

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	1,730	6,810				8,540

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

Ⅱ 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)／(A)
	8,540 ha	3,721 ha	43.6 %
課題	農家の担い手は高齢化及び後継者の減少する傾向にあり、今後の遊休農地の増加が見込まれるため、農業委員・農地利用最適化推進委員による農地パトロール及び利用調整等の最適化活動をより一層推進し、農地の集積・集約化を図る必要がある。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	令和12年度	集積率	66 %
今年度の新規集積面積	233 ha	農地面積(C)	8,540 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	3,954 ha	(目標)今年度末の集積率(E)=(D)／(C)	46.3 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	106 ha	1 ha	105 ha
課題	農家の担い手は高齢化及び後継者の減少が見られ、遊休農地も市内全域で拡大傾向にある。利用状況調査及び利用意向調査による農地の利用調整、農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積・集約を図る必要がある。		

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	1 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	0.2 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	98 ha
--------------------------	-------

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	関係機関と連携し、基盤整備事業による遊休農地の解消を図る。
-------------------------	-------------------------------

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	0 ha
---------------------------	------

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	令和2年度新規参入者		令和3年度新規参入者		令和4年度新規参入者	
	3	経営体	11	経営体	17	経営体
	0.6	ha	16	ha	12	ha
課題	新規参入者はあるものの、将来的な担い手不足を解消するためにも、新規参入者の増加は重要であり、市農業振興課、普及センター等の関係機関と連携し、農地の貸借りや取得において、参入しやすい環境となるようサポートしていく必要がある。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	令和1年度		令和2年度		令和3年度		平均	
	211	ha	336	ha	194	ha	247	ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積					24.7	ha		

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。))及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	10	日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	23	人
			農地利用最適化推進委員の人数	35	人

(2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数		3	回
取組時期	取組項目	強化月間の内容	
令和5年8月	②遊休農地の解消	遊休農地パトロールを集中的に実施する。	
令和5年12月	①農地の集積	機構と連携し、農地中間管理事業のPR及び利用促進を図る。	
令和6年3月	③新規参入の促進	利用意向調査を実施し、新規就農者に貸付け可能な農地の洗い出しを行う。	

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数		1	回
開催時期	未定	相談会名	未定
参加者数	未定	開催場所	未定
相談会の内容	新規就農者の相談会(オンライン開催含む)における助言者として農地利用最適化推進委員等が参加する。 ※日程及び内容等が決まり次第、参加調整を行う。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)